

仲間なかまのつながりを深ふかめよう！
～友達ともだちの思おもいに気きづける人ひとになろう～

こうちよう なが の ひで き
校長 長野 秀樹

あさゆう につちゆう かんだん さ おお たいちょうかんり むずか きよう ごろ こ
朝夕と日中の寒暖の差が大きく体調管理が難しい今日この頃ですが、子
どもたちはげんきよくともだちあそべんきようまいにちがつこうせいかつ
元気よく友達と遊んだり、勉強したりしながら、毎日の学校生活
を楽しんでいます。

この時期になると「秋深あきふかき隣となりは何なにをする人ひとぞ」という松尾芭蕉まつお ぼしやう はいくの俳句
が頭に浮かびます。この句は、芭蕉が病気のために俳句会に欠席すること
になった時、発句はつく（最初さいしよに出す俳句）として創作したといわれています。『秋
が深ふかくなり、病気びようきで床ゆかに伏ふせて静しずかにしていると、自然しぜんと隣となりの人ひとの生活せいかつ
の音が聞こえ、隣となりの人ひとは何なにをしている人ひとだろうなどと想像そうぞうしてしまう』とい
うような意味です。江戸時代いみと現在えどじだいでは住宅構造げんざいの違いちがいや様々さまざまな音おとがあるの
で隣となりの人ひとの生活せいかつの音が聞こえないかもしれません。しかも現在げんざいでは、隣となりの人ひと
のことなど全く気まつたにかけない人き、むしろ隣となりの人ひとと関わろうとしない人かかもい
るという寂さびしい現実げんじつがあります。他人たにんのプライバシーしんがいを侵害ゆるすることは許さ
れませんが、同じ地域おなちいきに住すむ隣人りんじんとして、同じ学校おながつこうで学まなぶ仲間なかまとして、隣となり
にいる人ひとの思おもいや生活せいかつを気きにかけることは大事だいじなことで、思おもいやりや助け合たすあ
いの心こころが培つちかわれる源みなもとです。時には、何気ときない言動なにげが友達げんどうを傷ともだちついたり悲きずしま
せたりしているかもしれませんが、友達ともだちの思おもいに気きづける人ひとになってほしい
と思おもいます。

がつこう がつはじ じんけんじゆんかん せつてい かくがつきゆう じんけん かん じゆぎよう
学校では、12月初めに人権旬間を設定し、各学級で人権に関する授業
を行います。学級がつきゆうの仲間なかまとの繋つながりふかを深だれめ、誰いごちにとっても居心地がつこうのいい学校
にするためには、どうしたらよいかについて、ひとりひとりが、そして、みんな
で、じっくり考えるに機会かんがにしたいです。